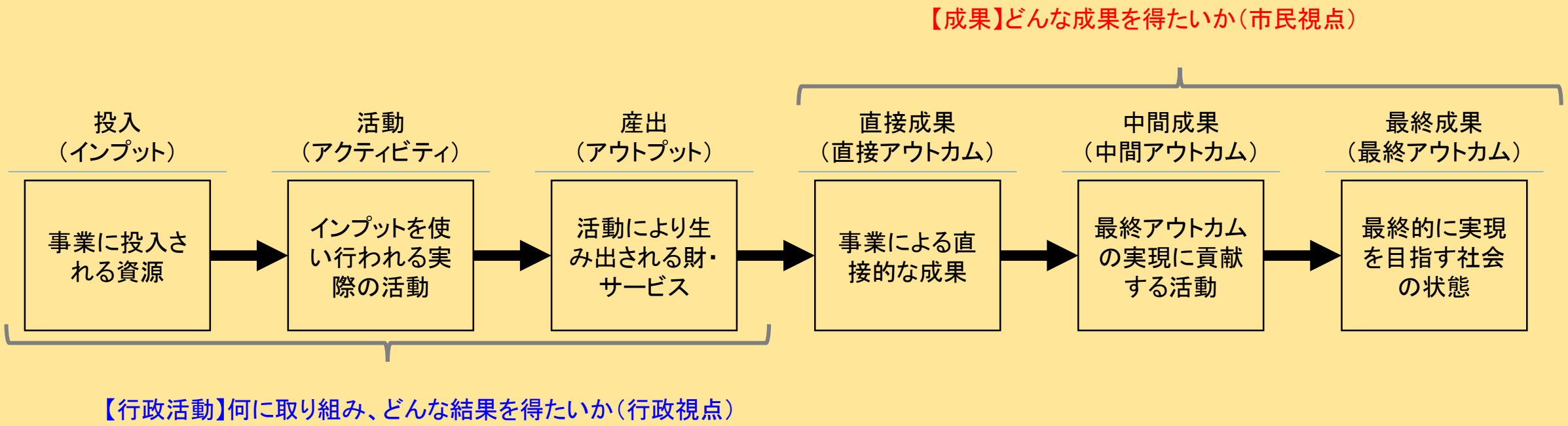
（参考）令和8年度 行政評価の考え方と進め方

成果から逆算する行政評価 ― ロジックモデルの考え方

●ロジックモデルとは

・ロジックモデルは、**事業が目指す成果とその達成に向けて用いられる手段との関係を、体系的かつ論理的に整理・可視化**するためのモデルです。
・インプットから最終成果に至るまでのつながりを一つの流れとして表現できることが特徴であり、**事業の目的・成果・手段を考えるための共通の土台**となります。



行政評価の年間スケジュールと意思決定プロセス

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月
担当課	1次評価作成（-4/30）	ヒアリング				とりまとめ	R9予算要求	
政策推進課	●通知発出(4/7) ●説明会開催(4/10)	2次評価作成（ヒアリング結果反映）						
会議／議会	●庁議報告			●第1回 県都まえばし創生本部会議	●第1回 有識者会議		●庁議報告 ●総務常任委員会報告	
伴走支援(※)				伴走支援の実施				

(※)伴走支援
・2次評価結果を踏まえ、事業の成果をより高めていくため、政策推進課が担当課と連携しながら、事業の見直しを検討する「**伴走支援**」を試行します。
・最終成果の実現に向けて改善の余地がある事業を対象に、ロジックモデルを用いて課題や方向性を整理します。

評価後の改善を支える仕組み― 伴走支援の実施

●伴走支援の概要

伴走支援は、行政評価における二次評価の結果が「C・D評価」の重点事業を対象に、以下の流れで実施を予定します。

（参考）
Ａ評価：最終成果の実現が十分に期待できる
Ｂ評価：最終成果の実現が概ね期待できる
Ｃ評価：最終成果の実現に向けて改善が必要
Ｄ評価：最終成果の実現に向けて抜本的な改善が必要
ー　：最終成果の実現したことから事業完了とする

1.現状分析

・目指す目標
・現状と課題
・事業を取り巻く環境変化
・既存事業内容 等

2.点検

・目的～成果～活動を整合
・指標の設定 等

3.改善検討

・改善箇所の特定
・改善手法の検討 等

4.予算要求

・次年度予算要求への反映検討

5.モニタリング

・設定した指標を中心に観察
・更なる改善検討 等